

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成29年度 第2回入間市人権教育推進協議会
開 催 日 時	平成29年11月15日(水) 午後2時00分開会 午後3時15分閉会
開 催 場 所	入間市役所 B棟5階 第4委員会室
議 長 氏 名	山口 忠友
出席委員(者)氏名	遠藤 敏 小玉佳也 永石 類 内藤達矢 山田達雄 木口昭子 山口忠友 斉藤俊明 笹尾 彰 大場烈夫 寺岡豊博
欠席委員(者)氏名	古谷 進 齋藤勝久 中沢ますみ 大島光恵
説明者の職氏名	3 協議事項 林田主事 4 その他 林田主事 熊谷主幹
会 議 次 第	1 開 会 2 あいさつ 3 協議事項 (1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために (2) その他 4 その他 ・今後の会議日程について 第3回 平成30年2月15日(木) 午後2時から 入間市役所C棟5階501会議室 5 閉 会
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	齋藤教育部長 新見教育部次長 片寄社会教育課長 関谷社会教育課主幹 林田社会教育課主事 関谷社会教育指導員 熊谷教育センター主幹 町田人権推進課副主幹

会 議 録 (2)

議 事 の 概 要 (経 過) ・ 決 定 事 項

第 1 回 人 権 教 育 推 進 協 議 会

委 嘱 状 公 布

西澤教育長は公務のため、代わって齋藤光明教育部長より遠藤敏委員へ委嘱状交付。
中沢ますみ委員は欠席

3 協 議 事 項

- (1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくために (案) 検討
はじめに・家庭における取組
学校における織組
行政における取組・おわりに
- (2) その他

(林田主事、熊谷主幹)

6 そ の 他

- (1) 人権啓発講座の案内 (林田)
- (2) 人権問題講演会の案内 (林田)
- (3) 今後の会議日程について (林田)
次回 (第3回) を平成30年2月15日 (木) 午後2時から開催
- (4) 授業研究会案内 (熊谷)

会 議 録 (3)

発 言 者	発 言 内 容
	<p>3【協議事項】</p> <p>(1) インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくため(案)</p> <p>はじめに</p> <p>1 家庭における取組</p>
山口会長	協議事項の1、インターネットの使用法と人権に関する教育を推進していくための協議に入る。最初に事務局から提言案について説明願いたい。
林田主事	提言書の素案について説明する。前回までの協議会の中で頂いた意見をもとに、はじめに、家庭、学校、行政の3つ、地域については、それぞれ学校・行政等に含めて載せてある。最後におわりにという段落構成である。各章とも箇条書きで各4つの項目にしてある。各章ごとに区切って協議していただきたい。
	(はじめにと1家庭における取組について読み上げる。)この2つについてご協議いただきたい。
山口会長	皆様からのアンケートをベースに案文が作られているが、木口委員いかがか。
木口委員	ここでは、幼児期のことについては触れられていない。親がインターネットについての認識をきちんと持った上で子育てにあたるというのが出発点になると思う。 <u>幼児期にもインターネットに触れることがあるので、入れてもらえると良いと思う。</u>
山口会長	確かに幼児期から注意する必要があると思う。今、木口委員からそういう指摘があったが、どうか。寺岡委員いかがか。
寺岡委員	それに関連する内容として、 <u>1-(2)に「家庭で話し合う機会を設ける」とあるが、これは一番大事なことだ</u> と思うので、(1)に持ってきたほうがよいと思う。冒頭に会長が言った先日の事件で、自分の子供の居場所を知らない高校生の親がいるということから、一番大事なのは子供とのコミュニケーションではないかと思うので、これを一番にしたほうがよいと思う。
山口会長	1-(2)を(1)に持ってきたほうがよいという意見だった。小玉委員いかがか。
小玉委員	1-(3)だが、少し気になる表現で「スマートフォンを持たせないのではなく、」と言い切ってしまうと、「じゃ、スマートフォンを持たせなさいよ」というふうに捉えられてしまうという恐れがあるのではないかという気がする。では、どういう表現が良いのかというのはすぐには思い浮かばないのだが。それから、(1)(2)でインターネットのことを言っているのに、(3)はスマートフォンのことに限定してしまっているので、 <u>(3)では「パソコン・スマートフォンを使う(用いる)場合」という表現になるのかな</u> と思う。
山口会長	<u>このところの文章を精選したほうがよい</u> と思う。他に、遠藤委員いかがか。
遠藤委員	私も事前にこの資料をもらったときに、1-(3)のこの文章が気になっていた。小玉委員が言っていたように、 <u>「スマートフォンを持たせた場合」とか「パソコンを使用させた場合」</u> などの表現のほうが伝わりやすいのではないかと思う。
山口会長	この文章はそういう形のほうが確かに良いと思うので、 <u>訂正してもらいたい</u> と思う。他に何か意見はあるか。大場委員。

大場委員	はじめにの最後の文章で、「 <u>協議いたしました</u> 」の「し」が抜けている。内容については皆さんが言ったのと同じだ。
山口会長	山田委員いかがか。
山田委員	<p>私の世代になると、インターネットは身近ではないが、先日大学生の甥と一緒に旅行に行った。朝起きて寝るまで、お昼の食事の間でもスマホをやっている。別に会話している様子ではないので、スマホを見ているのだと思う。「何か面白い事でもあるの?」と聞いても、「うん」と答えるだけである。後で、帰宅してから、親に「彼はスマホをやり過ぎではないのか。」と言ったら、「そう思うのだが、もう、子供ではないからどうしようもない。」と、親のほうはもうあきらめてしまっている。帰り道で寄りたいたころがあったのだが、道順が判らなかったので、「すぐにスマホで調べてみる」と言って、すぐに調べた。それで目的地に着くことができた。</p> <p>そこで、私が気付いたことは、何も感動などが残らないのだ。何かわからないことがあるとすぐにパソコンで調べればよいという考えで、「これは便利だ。」と思った。そのうちに、これは便利だけれど、そこから先自分が何も考えないで、分かったことはパソコンで調べればよいということのみだ。そこから先の進歩がない。見たり聞いたりしたことに対して、認識や知識が自分のものになっていないのではないか。結局、目的は達したのだが、そこから先どうしたらよいのか自分が考えるということをしていない気がする。本人はそこから先の「またわからなかったら、パソコンで調べればよい。」という認識で、あまり知識が進んでいかないような気がした。そういう点では、<u>最初にパソコンやスマホなどを覚えさせるときに、何か知ったり見たり聞いたりしたことがあったら、その先のことを考え、自分のものにしていくことを考える、そのためのツールだということを教えておけばよいのではないか。</u>結局は、「便利だからそのままにしておけば、ここまでやれば後はパソコンが教えてくれる」というような教え方をしている。ここへ聞けば何でも教えてくれる。それは便利だが、そこから先に進まないような気がする。自分なりに消化していかなければならないということが教え方として足りないような気がした。</p>
山口会長	<p>その通りだ。スマホやパソコンは非常に便利で、知らないことをすぐに調べられる。話をしているときも、よく途中で話を区切って、調べている人も結構いる。<u>使い方について、小さい子供たちには、もう少しいろいろと教える必要があると思う。</u></p>
永石委員	<p>永石委員いかがか。</p> <p>(1) から (4) の中には、親が教えるということは入っているが、<u>親の行動についても何か文章があると良いと思う</u>。例えば、店に行くと家族 4 人位で食事しに来ている。そこで、4 人がそれぞれスマホをいじっていて、4 人でわざわざ何をしに来ているのだろうというような場面をよく見かける。親が家でいつもスマホをいじっている中で、「<u>使い方をしっかり考えなさいよ</u>」などと言われても、子供としては、「お父さんもお母さんもいつもスマホばかりやっているじゃないか」というのもある。だから、<u>親が行動で示していく</u>。例えば、食事の時は使わないとか、そういうのを子供が小さいうちから家庭でやっていくということがすごく大事。それは言葉で伝えるだけ</p>

山口会長 斉藤委員	<p>でなくて、行動で示していくということも非常に重要ではないかと思う。</p> <p>確かにそうだ。親が子どもに手本を見せることが重要だと思う。</p> <p>私も、(3)がスマートフォンに限定されているところに違和感を持った。はじめにの文章で、下から5行目の文章に「現代ではインターネットが普及し～」のところ、インターネットという言葉が出てきているので、例えば、「<u>インターネットに接続する機器については</u>」とか、もし、スマートフォンをどうしても入れたければ、「<u>スマートフォンに代表されるインターネットに接続する機器については</u>」とし、「持たせない」というのを「<u>所有させない</u>」「<u>保持させない</u>」としたらよいのではないか。その後、「<u>使い方について～</u>」というふうにつながれば、ネット機器全般についていっているような気がした。そういうふうを考えてもらったらと思う。</p> <p>それから、木口委員が言った<u>幼児期のことが入っていないということなので、追加で一項目入れるか、さもなければ(4)に、「マナーやモラルを子どもに教えることは保護者の責務であり、</u>と書いてあるので、このあたりの文章を変えて、<u>幼児期のことについて触れてもらうようにしたら</u>と思う。</p>
山口会長 笹尾委員	<p>それと、順番だが、先ほど(2)が大事だということと言われたが、確かに内容的にはそうなのだが、時系列から考えると(4)のマナーというのが一番大事かという気がしたので、私は、<u>(4)に書いてある文章を最初に持ってきたらどうか</u>と思う。</p> <p>(4)を(1)に持ってきたらという意見が出たが、そのことについてどうか。それから、先ほどの木口委員の意見に対して、<u>幼児のことについても(4)に追加したほうがよいのではという指摘に対してどうか。笹尾委員いかがか。</u></p> <p>今までよくまとめてもらっていると思う。今日皆さんが言われた意見の中で、私もマナーやモラルというのは先頭にきたほうがよいと思う。<u>(2)も(1)の前に来たほうがよいと思う。</u></p>
山口会長	<p>以前にも質問したが、提言の対象、市民全体ということもあるが、家庭や学校に対しては、ある程度の年齢範囲があるのではないかという気がする。というのは、(4)に表現の中で、「マナーやモラルを子どもに教えることは保護者の責務である」ということは非常に重要であると思うが、「<u>問題が起きれば保護者の責任となる事を認識することが大切です。</u>」というのは、果たしてどこまでが保護者の責任なのか。例えば、今回起こった座間市の9人の殺人事件だが、それを、保護者側がああ責任を親にまでどうこうするのかというような問題が出てくるような気がした。例えば学校に関する場合もそうだろうが、特に小中高校あたりまでの学校教育に対するインターネット教育としての提言なのか、入間市民全員に対しての教育の提言なのかをはっきりさせたほうがよいのかと思う。</p> <p>事前の事務局との打ち合わせでも、そのあたりが少し問題となった。この提言には、家庭とか学校とかが出ているが、提言の対象はもっと広く社会人を含めているつもりだ。具体的な家庭とか学校というところではどうしても小さな子供が対象となったような文章になってしまっている点もある。ただ、この中にはもっと広く一般の人を対象になるということも考えている。</p>

林田主事	<p>今、山口会長に言ってもらった通りだ。基本的には市民全員をという形では考えているが、人権施策の委員会ではなく人権教育推進協議会という特性上、やはり子どもに主眼が置かれているというところも大きいかなと考えている。家庭学校においては、子供を対象として考えている。未就学児を含め小中高校生ぐらいまでを考えている。それと関連して、行政における取組については、市民全体を含めた提言として想定している。</p>
永尾委員	<p>そうすると、<u>学校における（１）と同様に、家庭においても（４）のマナーやモラルというところが前に来たほうが、保護者の責任というところから良いのではないかなと思う。</u></p>
林田主事	<p>１－（４）で「問題が起きれば」は、曖昧な表現になっていて、文章を作った側としては「問題が起こって、加害者となってしまった場合は」というようなところで想定していた。今回の座間の事件のように、被害者になった場合は、そこで保護者の責任はということになると、ゼロではないにしても、そこを追及というのは文言としては違うのかなというところがあるので、そこは修正したいと思う。</p>
永尾委員	<p>加害者があれくらいの年齢でも、保護者の責任とかということがよく出てくる。あれくらいの年齢でも保護者の責任かなという疑問があったので。</p>
大場委員	<p>はじめにのところで、「現代ではインターネット機器が普及し、利便性が高まる一方、インターネットを用いたいじめやトラブル、犯罪が増加しているところも事実です。」これはその通りだが、もう一点、例えば、<u>スマホ依存とか視力の低下など、心身への影響が問題になっているので、その文をはじめにのどこかに入れていただきたい。</u></p>
山口会長	<p>それについては、事務局のほうで検討願う。他に意見はあるか。（なし） それでは、はじめにと家庭における取組を終了して、次に移りたい。</p>
山口会長	<p>２ 学校における取組</p>
山口会長	<p>事務局から説明をお願いしたい。</p>
林田主事	<p>（２の学校における取組を読み上げる。）１の家庭における取組では、文末を「～することが大切です。」という表現に統一した。２の学校における取組では「～必要です。」という少し強い言葉で表現している。３の行政についても同様の表現にしてある。 では、２の学校における取組について協議いただきたい。</p>
山口会長	<p>２の学校における取組について意見のある方は？永石委員いかがか。</p>
永石委員	<p>（１）で「インターネット上の発言がどのように他人に影響するか」というところで、中学校ではインターネットのトラブルが多いのだが、特に、インターネットの特性だと感じるころは「発信したものが残る」というところだと思う。例えば、誰かの文句を言うという事は昔からあることだ。それが言葉であれば、言ったその場で消える。でも、インターネットに書き込んでしまうと、それがずっと残ってしまう。学校でインターネットのトラブルがあった場合に、ツイッターなどを検索してみると残っている。ネットパトロールで見つかった数カ月前のものが検索すればすぐに出てくる。だから、<u>どのように他人に影響する</u>というところで、その具体的な所として「<u>発信したものが残る</u>」というような文面があると、インターネットの危険性の特性が伝</p>

<p>山口会長</p> <p>内藤委員</p>	<p><u>わるのではないかと思います。</u></p> <p>ネットでの色々なやりとりが残るといのが確かに問題で、被害者のほうでもそれを消してくれということを行っているようだが、難しい問題でもあるようだ。</p> <p>内藤委員いかがか。</p>
<p>山口会長</p> <p>齊藤委員</p>	<p>(1) のところで、他にラインとかのツールがあるが、同じように履歴も残る。それに、私の子供がお世話になっている藤沢中学校では、ネットアドバイザーに定期的に学校に来ていただき、インターネットは便利であるが、使い方を誤ると大変なことになるという事を具体的に示していただき、講演会という形でやって頂いている。学校のほうでも対応して頂いているが、私たち親を含めたほうでも、家庭内でルールを定めて、子供が普段何をやっているかをきちんと把握するようにし、できる範囲で、ツイッターやラインなどの使い方をきちんと指導するようにしている。</p>
<p>山口会長</p> <p>寺岡委員</p>	<p>齊藤委員いかがか。</p> <p>2の学校における取組については、私としてはよくまとまっていると思う。</p> <p>寺岡委員いかがか。</p>
<p>寺岡委員</p>	<p>3の行政における取組の(3)でアクティブ・ラーニングの推奨を語っているが、これこそ学校でできないのかなと思う。行政のほうでアクティブ・ラーニングをやろうと言っても、誰が来るのかなという疑問がある。こういうのを強い態度でできるというのは、学校のほうがよいのではないかと思います。従って、これは2の学校における取組のほうに入れたほうがよいと思う。</p> <p>子供たちの使い方を見ていて、一番教育していただきたいのは、ツイッターというもので、匿名の名前を明かさず、ずるいことができるものだ。そこで、先日の事件だと、検索したら当たりやすい名前を無理やり付ける訳だ。自分と違う名前で人とコミュニケーションが取れるようになるということの危険性を、若い人はなかなか分かっていない。そういうことをやるというのは、たぶんアクティブ・ラーニング、こういうことをしたらこういう返事が来てということ。弁護するわけではないが、あの犯人も元々は普通の人だったはずだ。あのようなあだ名をつけてしまったから、いろいろな人が集まり、変な使命感を持ち、変なことをしてしまったのかもしれない。そういう過程が恐ろしいという事を教えられるので、アクティブ・ラーニングが一番良いのではないかと思います。</p>
<p>木口委員</p>	<p>(2) だが、私は学校の現状があまりよくわからないのだが、「<u>保護者に対して講演会を実施し</u>」と、<u>講演会に限定しなくても、違う形でもこちらがアクションを起こして、伝え学ぶ機会を設ける</u>ことがあると良いと思ったが、いかがだろうか。</p>
<p>小玉委員</p>	<p>今の話にあったように、(2)では、講演会に限定せず「講演会など」という一言を入れたほうがよいと思う。講演会以外にも、いろいろなことに取り組んでいるので。</p> <p>私は、(3)がものすごく違和感がある。「<u>インターネットに関する最新の情報を提供すること</u>」とは、何を提供する必要があるのだろうかということが第1点。後は、「ネットパトロールを推進し、充実させることが必要です。」とあるが、ネットパトロールとはものすごくお金がかかる事なのだ。これは、各学校でやる事ではなく、県教育委</p>

遠藤委員	<p>員会で人を雇ってネットパトロールというのをやっているが、若しくは市教育委員会かどうかわからないが、<u>「各学校でネットパトロールを推進」というのは、ちょっと違和感がある。</u>私は県立高校だが、県のほうでネットパトロールがいて、何かあると各学校のほうに、こういうのが見つかったと教えてくれる。そういう状況なので、<u>(3)については、各学校で推進するのは予算の関係もあって難しいのではないかと</u>思った。</p>
山口会長	<p>ネットパトロールに関しては、平成27か28年度に、入間市では中学校でまず始めて、市教育委員会が音頭をとって予算を組み、中学校のほうで始めた。中学校のほうでは課題山積なので、その翌年から小学校のほうにも予算を組んでもらい、小中27校分の予算をとってもらい取り組んでいる。ただ、<u>ネットパトロールは、市教育委員会、行政のほうで取り組み、学校を守ってもらう形にするのが一番良いと思う。</u></p>
遠藤委員	<p><u>(3)の「インターネットに関する最新の情報」というのは、誰に提供するのか。「インターネットに関する最新の情報」とは一体何なのか。</u>文面を読むだけではそう思ってしまった。これが、市民の方々に通用する文言になっているのかなと疑問に思った。</p>
山口会長	<p>今のネットパトロールの話だが、小学校と中学校個々にやっているのか。そうではなくて市としてやっているのか。</p>
大場委員	<p>市のほうで予算をとってもらい、一つの業者に依頼をしている。その一つの業者が、27校分の学校のインターネット上に出てきている文言、悪口だとか誹謗中傷だとかというものが、学校ごとに情報をもらっている。</p>
山口会長	<p>(3)の文章に違和感があるという意見があるが、大場委員いかがか。</p>
小玉委員	<p>(3)の文については同感だ。</p> <p>(4)だが、「いじめなどのトラブルの被害を受けたときに、」とあるが、これは被害者側から見て相談しやすい環境を整えることだが、被害を受けて一番大事なものは、早期発見することではないかと思う。そういう視点から考えると、「相談しやすい環境を整える」というのは、非常に抽象的すぎるのではないかと思う。具体的にどこにどういう窓口を作るのか、もう少し具体性があった方が良いのではないか。</p>
大場委員	<p>「相談しやすい環境を整える」という表現が、少し抽象的だという意見だが。</p> <p><u>学校の立場から言うと、「相談しやすい環境」で納めてもらった方が実際の話、良いと思う。</u>というのは、ある程度限定するよりも、担任も相談しやすい環境をつくる、副担任も相談しやすい環境をつくる、学年としても相談しやすい環境を作る、若しくは、保健室もというふうにチャンネルがたくさんあるので、ここで逆に限定してしまうと限られてきてしまうと思う。要するに、<u>教員全員が相談しやすい環境、という視点で捉えていただいたほうが良いと思う。</u></p>
小玉委員	<p>私が言っているのはその点だ。つまり、担当窓口が複数、たくさんあるほうが良いのではないかという意味だ。</p>
大場委員	<p>生徒に関わる教員全部が、生徒に対して相談しやすい環境であるということだ。</p> <p>現実にそういうことはやっているのか。</p>

小玉委員	もちろんだ。
大場委員	承知した。
山口会長	他に何か意見はあるか。
笹尾委員	<p>(1)の表現だが、「インターネット上の発言がどのように他人に影響するか」というのを文章に組み込もうとすると、マナーやモラルというところが、そのためのマナーやモラルという事になる。逆に、「<u>インターネットの使用に関して、マナーやモラル、或いはその危険性について、人権教育の一環として指導すること</u>」、その例とするのか、<u>こういうふうな影響とか、発信履歴が残る事とか、そういうものがあるという言い方のほうが、マナーやモラルに限定がついてしまうような気がする。</u></p>
山口会長	<p><u>こここのところは文章表現を変えるということで検討願いたい。</u>他に意見のある方は、ないようなので、2の協議を終えて3に移りたい。事務局の説明を願う。</p>
	<p>3 行政における取組</p>
	<p>おわりに</p>
林田主事	<p>3の行政における取組及びおわりにについて、まとめて説明させていただく。</p>
	<p>その前に、2の学校における取組の中で出たことについていくつか補足させていただく。<u>アクティブ・ラーニングについて</u>だが、前は、もともと学校のほうにあったのだが、学校だけではなく行政（市民全員）に入れられないかという事で、行政のほうに入れたという経緯があった。<u>もう一度よく検討していきたい。</u>それと、(3)の「<u>インターネットに関する最新の情報</u>」とは？ということがあったが、これは、この文章を入れた段階では、例えば、コンテンツについてもいろいろと変わっていることがある。例えば10年前であれば、具体的な話だが、SNSの日本におけるさきがけのミクシィというのが一番多かったこともあるが、現在ではツイッター、フェイスブック、ラインなど、というふうに変ってきている。それぞれのコンテンツ、ツールの中でどういうふうトラブルやいじめなどが起きているのか、被害が起きているのかということを、対象としては保護者の方に学校における取組の中で伝えられればということ想定して入れた。しかし、<u>分かりにくいところがあったので、このことについても検討し、修正をしていきたい</u>と思っている。また、(1)、(4)のところであった、表現の曖昧なところがあったが、あまり具体的な文言を載せてしまうと動きにくくなってしまふところもあるので、具体的な表現を避けているところもある。ただ、あまりにも具体性に欠けると意味をなさないので、難しいところもあるが承知願いたい。</p> <p>(3の行政における取組とおわりにの文を読み上げる。)</p> <p>ここで、一点補足がある。ノーメディアデーについて小玉委員より、支援学校のろう学校の生徒に関しては、ノーメディアデーにすることは無理だという意見をいただいた。これについては、例えば、眼鏡をかけている人が眼鏡を使うなど言われているのと同じことになると考える。そこで、(1)では、「できる範囲で」という一言を付け加えた。以上3とおわりにについてよろしく願いたい。</p>
山口会長	<p>3の行政における取組とおわりにののところについて、何が意見のある方は。木口委員いかがか。</p>

木口委員	(1)で「できる範囲でインターネット等にふれない時間を設けることを目指します。」というよりも、「～働きかけます。」という行政側の言い回しのほうが良い気がする。
山口会長 内藤委員 林田主事	行政側だから「働きかける」ということか。内藤委員いかがか。 (3)があまりピンとこない。こちらがこのことについて逆に質問したい。 (<u>ディベートとアクティブ・ラーニング</u> について説明する。)聞きなれない言葉かと思うので、 <u>提言書の最後のところに注釈を入れることも検討したい。</u>
遠藤委員	<u>アクティブ・ラーニングは、2年ほど前、学習指導要領の改訂等で、文部科学省が押してきた言葉だと思うが、つい最近になってからこの言葉は消えている。「主体的・対話的な深い学び」というような言い方に代わっている</u> ので、今、文部科学省で使っていないような言葉を残して分かりづらくするよりは、「 <u>体験的な方法を取り入れて</u> 」とか「 <u>主体的な方法を取り入れて</u> 」とか、一般の方にもわかるような言葉のほうが良いのではないかと思う。
山口会長 笹尾委員	<u>検討を願う。他に意見はどうか。</u> おわりにのところで、第2段落の「 <u>人の痛みがわかる児童・生徒を育成するためには、まず保護者がインターネットについて学ぼうとする姿勢を持つことが大切です。</u> 」 というのは、ちょっと理解できない。そういう生徒を育成するために、インターネットを保護者が学ぶというふうを受けとれてしまうので、インターネットのことをずっと言い続けてきているからだろうと思うが、 <u>こういう児童・生徒を育成するのに保護者がインターネットを学ぼうとする姿勢が大切だ</u> というのは、ちょっと結びつかないような気がする。
山口会長 笹尾委員	文章としては、ちょっとこの文章の前半と後半では、必ずしも結びつかないような気もする。 それともう一つ、その直後のところで「 <u>インターネットを使う人全員が、その利便性と危険性を理解し、互いに面と向かって心を通わせることが～</u> 」というのは、逆に、インターネットの危険性を理解して、そういう物は使わずに、もっと面と向かって会話をしなさいと言う意味での表現か。「面と向かって」というのは。「互いに面と向かって」ということは、「あまりインターネットで物事をやり取りしないで、直接話をしましょう」という意味にとって良いのか、ちょっとわからなかった。
片寄課長	通常であれば、 <u>面と向かって話し合う、相手のことを思いやるとかそういう気持ちを持ってインターネットを使っていたらいい</u> ということだ。これを読んで <u>表現が少しおかしい</u> と思ったので、よく検討し修正させていただきたいと思う。
山口会長 永石委員	よろしくお願ひしたい。 (1)のノーメディアデーというのは、ちょっとピンと来ないというか、少し前にプレミアムフライデーという言葉が出て、今はほとんど聞かなくなったが、実際にメディアを使わない、触れない時間を設けるということであれば、例えば、 <u>ノーメディアタイムとか</u> という言葉のほうが良い気がする。例えば、7時から8時の間は、 <u>メディアを使わずに会話を大切にしよう</u> とかのほうが最初としてはとっつきやすいのでは

	<p>ないか。ノーメディアデーというと、この日は使ってはいけないような無理な感じがするので。</p>
山口会長	<p>一日中というのは無理だと。</p>
永石委員	<p>現実的には厳しいと思う。我々も、仕事をしていて、この日は使わないでという、たぶん皆さん困ると思う。</p>
山口会長	<p>一日中ではなくて時間制限というのはどうだろうか。</p>
斉藤委員	<p>(1) のノーメディアデーよりもノーメディアタイムのほうが、より現実的かという気もする。しかし、(1) で、最初に「ノーメディアデーを提言し」と書いてあり、その前文で、「市民一人一人がインターネットの使用法を意識、理解し、～」とあるから、そのために提言するのだという事はわかる。ややくどくなるのだが、何のために提言するのか。<u>インターネットの使用法を意識させるために、インターネットを使用するのを止めたら、という提言だと思う。</u>だから、<u>ノーメディアデーになるか、ノーメディアタイムになるかはさておいて、その前に、この提言する目的を入れたほうが良いのではないかと思う。</u></p>
	<p>文末表現が(1)のみが「～目指します。」で、その他が「～必要です。」となっているので、例えば、「<u>設けることを提案することが必要です。</u>」とか、「～必要です。」という文末にしたほうが良いと思う。</p>
	<p>(2) で「誰にでも関係することであるという自覚を持つことが必要です。」とあるが、これは行政での取組なので、行政が自覚を持つというのではなく、「<u>自覚を促す</u>」というほうが適切ではないか。</p>
	<p>(3) の文章が行政のところに入るとして、「<u>学ぶ機会を設けることが必要です。</u>」とあるが、<u>誰が学ぶのか</u>ということになる。この文の前に主語「市民が」を入れたほうが良い。</p>
	<p>もう一つ、おわりにの文章で、中間の文章で「その利便性と危険性を理解し、互いに面と向かって心を通わせることが重要です。」のところで、ただ心を通わせると言われてもピンと来ないので、これを「<u>心を通わせることを意識させる～</u>」とか「<u>～意識する～</u>」、つまり、<u>インターネットをやりながら心を通わせるのだ</u>ということ意識してもらおうという意味だと思うので言葉を補った方が良い。それから、また、の後の文章で「～連携・協力も不可欠です。」とあるが、何の連携協力なのか。だから、「<u>家庭・学校・行政</u>」の「家庭」の前に、例えば、「<u>インターネットの使用法やトラブルについては</u>」とかの文言を入れたほうが良いと思う。全体の文章を読んだ感じでは何となく分かるが、文章からすると言葉が足りないような気がするので、検討してもらいたい。</p>
山口会長	<p><u>表現についての検討を願いたい。</u>他に意見のある方はいらっしゃるか。</p>
	<p>山田委員いかがか。</p>
山田委員	<p>こうあらねばならないというような形で進めることは難しいと思うし、むしろこうであったほうがよいという結論は置いておいて、そのことについての<u>意見を皆が言えるような環境、場所があったらよい</u>と思う。特に、市民の関係において、インターネットなど一つのテーマがあって、それについて皆で意見を言い合える場があればよい。</p>

<p>大場委員</p> <p>木口委員</p> <p>山口会長</p> <p>片寄課長</p> <p>山口会長</p>	<p>一つの問題に対して、自分自身が想像もしていなかったようなものを見方をする人たちがいたりする。自分自身が順番をつけたら、全然そういう事でなく、大勢いればいる程いろいろな意見がある。私がそこで学んだことは、人というのはそれほどいろいろなことを考えるのだという事だった。だから、インターネットはかくあるべきという形で、頭からそういう話ではなく、皆さんの話を聞いてその中から自分なりに理解するという事。話しているうちに結構、ああそうかという事が出てくるものだ。ただ、驚いたことは、全然違う意見の人もいるということだ。誰かの意見だけで決まってしまうと偏ってしまう。だから、<u>まず皆でいろいろな意見を戦わすことのできる場を作り、その中で徐々に整理していくと、自然に整理できてくると思う。</u>最初から、こうであると良いというのではなく、この問題については皆さんはどう思うかというように議題を進めていくような話し合いの場があると良いと思う。</p> <p>終わりにのところで、「人の痛みがわかる児童・生徒を育成するためには、～」の文章だが、例えば、一例として、<u>家庭における取組の中の前文の2行目の「子どもたちの豊かな心を育み」とある。ここに例えば、「人の痛みがわかる豊かな心」というように入れ、その後の「まず保護者がインターネットについて学ぼうとする姿勢が大切です。」とは、つまり「子どもたちを加害者や被害者にしないために、まず～」というふうに入れると、なんとか通じるのではないかという気がする。いわゆる、保護者がインターネットについて学ぼうとする姿勢を持つことが大切だというのは、何を言わんとするかというと、<u>児童・生徒がインターネットの被害者とか加害者にならないようにするため、保護者はよく勉強するという気がしたので、どうだろうか。</u></u></p> <p>今のところで、「人の痛みがわかる」というよりも、「人の心がわかる」という表現のほうがより良いと思うがいかがか。</p> <p>それでは、いろいろ意見があるとは思いますが、ここで協議事項（1）を終了したい。その他、皆さんのほうから何か意見はあるか。</p> <p>本日いろいろな意見を頂戴したところだが、時間のこともあるので、自宅に戻ってからも何かお気づきの点があったら、事務局まで電話等で連絡していただければと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>よろしくお願ひしたい。他にも意見はあるか。（なし）。次回は、この提言書を訂正されたものが出るが、またその時にいろいろな意見を発表していただきたいと思う。それでは、今日の人権教育推進協議会はこれで終了したいと思う。</p>
<p>議事のとん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>議 長 の 署 名 _____</p>	